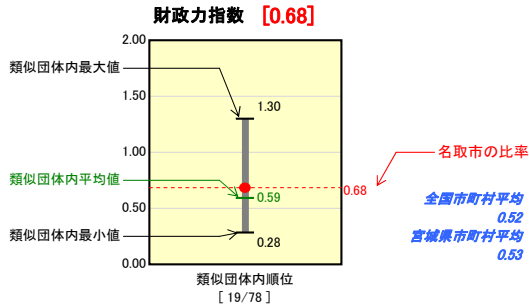


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

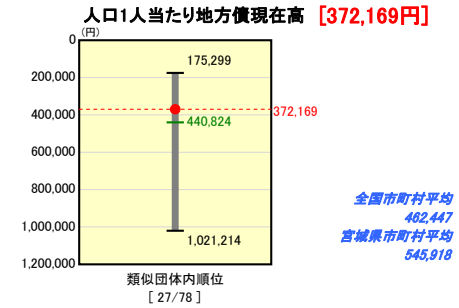
宮城県 名取市

人口	68,432	人(H18.3.31現在)
面積	100.06	km ²
歳入総額	21,759,062	千円
歳出総額	21,323,273	千円
実質収支	389,597	千円

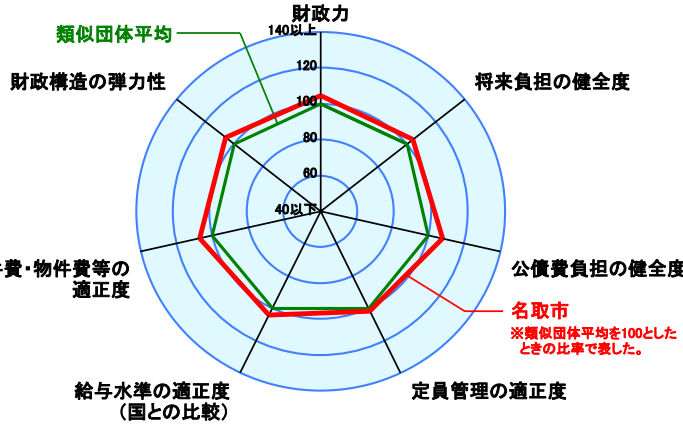
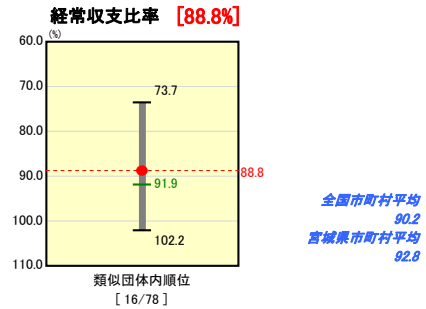
財政力



将来負担の健全度

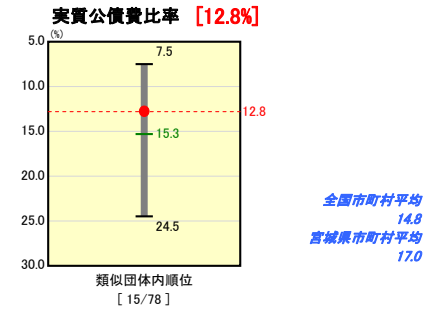


財政構造の弾力性

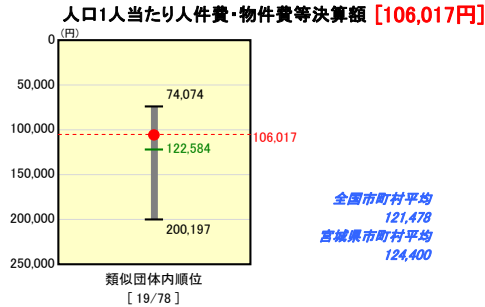


※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

公債費負担の健全度

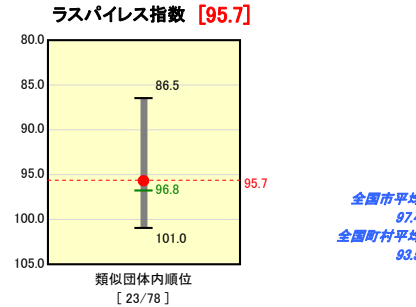


人件費・物件費等の適正度

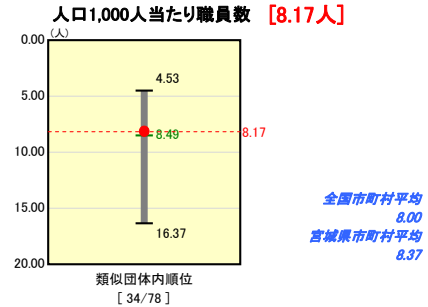


※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費費弁人件費を含み、退職金は含まない。

給与水準の適正度 (国との比較)



定員管理の適正度



分析欄

■財政力指数

・平成17年度は0.68であり、対前年度比でも0.01伸びている。地方税収においては、法人市民税、固定資産税の伸びが今後も期待できる一方で、退職者不補充による人件費削減などに今後も取り組むことにより、財政基盤をさらに強固なものとしていきたい。

■経常収支比率

・人件費については、市税、地方交付税の増額もあり、経常一般財源等が増えたことから、人件費そのものはわずかに増えたものの、経常収支比率に対する影響としては減となった。また、公債費が大きく減ったことも減要因となった。その一方で、扶助費で0.7ポイント増となったほか、下水道事業等会計への補助金の増額により補助費等で4.4ポイントの増となったことから、全体で1.0ポイント増となった。扶助費の増加などにより年々増加傾向にあるが、引き続き人件費の適正化や物件費の抑制に努めるとともに、市税の確保により経常収支比率の抑制に努めていきたい。

■人口1人当たりの人件費・物件費等決算額

・引き続き人件費の適正化と物件費の抑制に努める。

■ラスパイレース指数

・類似団体平均を1.1下回り、全国的には低い水準にあるが、宮城県内市平均では1.1上回っている。地域の経済状況を踏まえながら、今後も給与の適正化に努める。

■人口1人当たりの地方債現在高

・平成16年度と比較しても減少しているが、仙台空港アクセス鉄道と区画整理組合による開発の最終段階を迎え、ここ2、3年は投資的経費の財源として市債を見込まざるを得ない。後年度への影響を少なくするため、市債発行と公債費償還額とのバランスを境目のながら予算編成に当たってきたい。

■実質公債費比率

・比較的低い水準に抑えられているが、引き続き適正な水準を確保できるよう、今後とも市債の発行と償還のバランスに注意しながら市債の活用を図ってきたい。

■人口1,000人当たり職員数

・本市の場合、類似団体比較においては、平均を下回っている。今後は、集中改革プランの具現化を図りながら、特に公共施設の管理運営のあり方を見直すことにより、平成22年4月の全職員数を平成17年4月の全職員数624人から27人減員した597人とすることを目標とするところである。